O 093

全国を対象とした臨床分離 CA-MRSA 株の経年的変化

[1]文京学院大学　大学院　保健医療科学研究科、[2]東京医科大学微生物学講座、[3]東京医科大学病院感染制御部、[4]株式会社ミロクメディカルラボラトリー

○岡村 沙紀子[1]、山口　哲央[2,3]、小山　忍[4]、柳沢　英二[4]、松本　哲哉[2,3]

【背景および目的】市中感染型 MRSA（Community Associated MRSA: 以下 CA-MRSA）は米国において，市中のみならず院内においても検出が増えており，最も注意すべき病原菌の一つと考えられているが，日本においては，CA-MRSA に関する疫学調査は少ない．我々は，2010 年に全国の CA-MRSA を対象に収集・解析を行った．CA-MRSA の約 1 割が PVL 産生株であることが判明したが，過去に比較できる報告が少なく，経年的な変化を確認することは困難であった．そこで、今回我々は，前回と同じ条件下で CA-MRSA 株を新たに収集し、以前得られた CA-MRSA 株と比較することを目的とした．【方法】全国の医療施設からミロクメディカルラボラトリーに培養を依頼された検体のうち，1)外来患者，2)皮膚や膿から分離されたもの，3)微量液体希釈法で MPIPC≧4μg/ml，の全ての条件を満たす株を対象とした．PCR にて *mecA* 遺伝子の確認及び SCC*mec* typing，病原因子遺伝子の検出(PVL，TSST-1，ET)を行い，薬剤感受性を測定した．また，PVL 遺伝子陽性株に関しては MLST を行った．【結果】2012 年の臨床分離株は現在までに 90 株収集され，遺伝子解析を行ったところ，SCC*mec* type I が 4 株(4.4%)，type II が 29 株(32.2%)，type IV が 39 株（43.3%），type V が 14 株（15.6%）であった．PVL 陽性株は 11 株（12.2%）であり，11 株中 10 株が type IV（type IVa: 4，type IVc: 6），1 株が type V であった．PVL 陽性 SCC*mec* type IVa 株のうち 3 株は ACME 陽性であり，USA300 clone であることが疑われた．【結論】対象となった 2012 年の全 MRSA 株に PVL 産生株が占める割合は約 1 割であり，2010 年時の結果と同程度であった．しかし，SCC*mec* type IV 株に占める PVL 産生株の割合は 26%と高く，また，USA300 clone の検出が多いことから，病原性の高い菌株が増加している可能性が示唆された．さらに引き続き菌株の収集を行い，解析結果を併せて報告する予定である．

O 094

神奈川県下 4 施設における VCM 低感受性 MRSA の検出状況と治療の現状

[1]日本医科大学武蔵小杉病院　薬剤部、[2]横浜市立市民病院　薬剤部、[3]横浜市立脳血管医療センター　薬剤科、[4]厚木市立病院　薬剤管理指導室

○吉田 奈央[1]、野口　周作[1]、五十嵐　文[2]、佐藤　歩[2]、原　弘士[3]、臼田　誠[3]、永井　徹[3]、岩崎　弥生[4]、牧野　淳子[4]、五十嵐　俊[2]

【目的】VCM はグリコペプチド系抗菌薬であり、主として MRSA 感染症治療目的に使用されている。近年 VCM に対して感受性の低い MRSA による感染症がその治療の困難さから問題になっている。今回我々は、VCM に対して低感受性（MIC≧2μg/mL）の MRSA の検出状況、薬物治療の現状について調査し、今後の治療計画の検討に役立てることとした。【方法】2011 年 1 月から 12 月に神奈川県下 4 施設に入院した患者で VCM に感受性の低い（MIC≧2）MRSA が検出された症例を retrospective に検討した。【結果】調査 4 施設における MRSA の検出患者数は 532 例で、そのうち 236 例で VCM の MIC≧2 の MRSA が検出された。236 例中、保菌は 185 例で、実際に治療が行われたのは 51 例だった。選択された抗 MRSA 薬の内訳は、VCM 23 例、TEIC 28 例、ABK 8 例、LZD 12 例だった（重複含む）。初期治療に VCM が選択され、その後変更された症例が 6 例で、2 例は TEIC、1 例は ABK、3 例は LZD に変更された。抗 MRSA 薬の投与終了後 1 ヶ月以内の死亡は 17 例だった。13 例で VCM の AUC/MIC が算出できたが、有効性の目安とされる 400 を達成したのは 4 例だった。しかし、400 未満の症例も 7 例で 1 ヶ月以上生存していた。【考察】 VCM の MIC≧2 の MRSA に対して、VCM で治療が完遂した症例の 1 ヶ月生存率は 75%であり、他の抗 MRSA 薬で治療した症例と変わらなかった。検査結果で MIC＝2 と判定された症例の中には MIC＝1～2 の症例が含まれていると考えられるため、MIC＝2 と判定された症例においても慎重に臨床経過を観察すれば VCM で治療継続することが可能であると推測される。